

令和5年度(2023年度) 学校評価書

学校名 北海道札幌南高等学校（定時制）

学校関係者
学校評議員
5名

1 学校教育目標

- 自然豊かな北方風土の中で、勤労と学業を両立できる強固な意志と逞しい体力を養う。
- 基礎学力を高め自己啓発に努めることにより、時代の進展に対応できる能力を養う。
- 豊かな情操をもって集団生活に適応し、社会の発展に貢献できる調和のとれた人格を養う。

2 スクール・ミッション

- 〇望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
- 〇社会人としての基礎・基本を身に付け、時代の進展に対応し、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成する。

3 年度の重点目標

ICTを効果的に活用した教育活動を推進し、本校教育の質の向上を図る。

4 自己評価結果

評価基準 【A：達成している B：おおむね達成 C：やや不十分である D：不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A：適切な評価である B：ほぼ適切な評価である C：やや不適切な評価である D：不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A：十分な効果が期待できる B：ほぼ十分な効果が期待できる C：あまり効果が期待できない D：全く効果は期待できない】

領域	重点事項	評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善・充実の方策	(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
Ⅰ 学習指導	①基本的な学習態度を身に付けさせ、学ぶ意欲を喚起する授業の工夫・改善を図る。	①授業規律を確保し、ICTを活用するなどして学びに興味・関心をもたせることができたか。	A	・生徒による授業評価アンケートの結果を授業改善に活用する。 ・相互授業参観週間の意見感想交換の内容を授業改善に活用する。 ・ICT活用ポータルサイトを積極的に用いて教材研究を行う。	A	A
	②生徒が学習したことの意味や価値を実感できる学習評価を充実させる。	②3観点に基づく観点別評価を適切に実施することができたか。	B	・生徒が常時シラバスを閲覧できる環境を整備し、指導と評価の一体化を図る。 ・単元毎の到達目標を生徒に明確に提示する。 ・評価は、考查に偏ることなく、日頃の授業から積極的に行う。		
	③各種検定を奨励する等、三修制の充実を図る。	③高卒認定試験説明会や個別添削指導を効果的に実施し学校外学習単位認定につなげることができたか。	A	・高卒認定試験に向けての放課後の講習会および夏期講習を継続する。 ・外部機関との連携による学校外学習の単位認定の促進を図る。		
	学校関係者の意見					
Ⅱ 生徒指導	①「生徒心得」を遵守させ、規律ある生活習慣を確立させる。	①HR担任と教科担任が連携を図り、挨拶・遅刻・欠席等の基本的な生活習慣を確立することができたか。	B	・登校時指導での、挨拶・遅刻への呼びかけを継続する。 ・面談週間に限らず、多くの教員と面談を行い、規範意識を育成することにも基本的な生活習慣の確立を目指す。	A	A
	②「命を大切にすること」を養うとともに、他者を尊重し「いじめは絶対に許されない」という意識と態度を育成する。	②生徒情報交換会、教育相談等での定期的な情報共有により、積極的に生徒の状況把握に努め、迅速かつ組織的な対応を図ることができたか。	A	・月1回の生徒指導に係る校内研修会、定期的ないじめ防止委員会を継続し、いじめの未然防止・早期発見に努める。 ・いじめを積極的に認知する姿勢を教職員で共有するとともにいじめ事業に対して組織的に対応できる準備を怠らない。		
	③情報モラルを身に付けさせる指導を適切に行い、インターネット社会に必要な態度を育成する。	③SNSに関わるトラブル防止について、HR指導、啓発活動、教員対象の研修等を適切に実施できたか。	A	・生徒指導部によりリーフレットを活用した啓発活動を継続する。 ・全校集会時の生徒指導部長講話での指導を継続する。		
	学校関係者の意見					
Ⅲ 進路指導	①関係機関との連携や進路情報の提供を充実させ、自ら進路選択する能力を育む。	①企業・学校訪問や進路学習により、自らの進路に対する意識を高めることができたか。	B	・企業訪問、大学訪問を継続する。インターンシップの代替行事として、ブース型の仕事体験を実施する。 ・進路目標達成の進捗となる内容の充実した「進路のしおり」の完成を目指す。	A	A
	②各種活動を通して、社会に出て通用するマナーを身に付けさせる。	②進路講演会、ボランティア活動、個別面談等を通して、場に応じた言葉遣いや態度を身に付けることができたか。	A	・市内各校定時制と情報共有し、多岐にわたる講師を招聘することで更なる充実を図る。 ・大学生のフィールドワークで、4人の学生に5日間にわたり訪問いただいたことで、憧れを持った生徒が進学を希望した。今後も連携を図りたい。		
	③生徒の適性・ニーズを的確に把握し、進路支援体制の深化・充実を図る。	③進路相談会や三者面談を計画的に実施し、進路指導部と担任面との連携・強化を図ることができたか。	B	・夏季休業中の就職支援員との面談を継続する。 ・希望する生徒に職場見学に行かせたことが、就職試験の合格率を上げることにつながるため、職場との連携を密にする。		
	学校関係者の意見					
Ⅳ 健康・安全指導	①感染症予防および健康管理の意識を高め、学業と就労との両立を支援する。	①「さあチェック」や健康相談、保健だよりを活用し自分自身の健康状態を把握することができたか。	A	・今後も気を緩めることなく、感染症への対策を実施し、集団感染を回避する。インフルエンザやノロウイルスにも注意する。	A	A
	②自他の生命の尊さを理解させ、危機管理能力を高めさせる。	②防犯教室、防災教室、SOSの出し方教室等を通して、具体的な方策を学ぶことができたか。	A	・SOSの出し方の手段として、健康観察・教育相談用フォームを常時受け付け、消極的な生徒も訴え易い環境にする。 ・マンネリ化を防ぐため、警察以外の講師による講演も企画を進める。		
	③学校給食指導を通して、食生活の重要性やマナーを認識させる。	③給食だより等を利用した食育を通して、食に関する知識や興味・関心を持つことができたか。	B	・給食体験会など保護者を巻き込んだ食育推進を進める。 ・さっぽろ青少年女性活動協会による給食費支援に対し、深く感謝を申し上げます。		
	学校関係者の意見					
Ⅴ 働き方	1 ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の視点を取り入れ、勤務時間を意識した働き方を推進することができたか。		B	・業務内容の平準化や精選に努める。 ・アブソーサリーに年休取得を進めるなど、必要な休暇を取りやすい職員室にする。	A	A
	2 計画された部活動休養日等を完全実施して、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮することができたか。		B	・練習試合を行った後は、練習を行わないなど配慮した。来年度も完全実施に努める。		
	学校関係者の意見		・生徒の多くは、様々な過去の経験があると想像される中、先生達の努力には頭が下がります。ICT活用で自信を取り戻すことを期待したいです。 ・受け持ち授業数を減らし、余裕のある職場環境の実現			